

令和3年度 自己評価結果公表シート

豊中みどり幼稚園

1. 本園の教育目標

- 心身ともに、たくましく元気な子どもに
- 思いやりのある、あたたかい心の子どもに
- よく考え、判断し、行動できる子どもに
- 幅広い経験に意欲を持って取り組み、やり抜く子どもに
- 自分の感じたことを豊かに表現できる子どもに

2. 3年度重点的に取り組む目標や計画

子どもの育ちを可視化し、共有していくことで子どもの主体性を育む自園の保育や子ども理解を深め、保護者へも発信していく。

園児管理アプリを導入し、業務効率化につなげる。

① プロジェクトを通して、保育の質向上

保育者がチームを組み、食育・運動遊びの分野において、子どもの育ちや課題を見出していく。

- a. 食育活動から見る子どもの経験と育ち
- b. 戸外遊びからみる子どもの経験と育ち

② 子どもの理解の共有

子ども達の姿(興味関心、関わり、気づきなど)や成長を、子ども・職員間・保護者に可視化して伝え、共有し、保育の質の向上を目指す。

- a. 保育の可視化を使って保護者への発信
- b. 職員間の共有

③ 業務の効率化、ICT化に向けて

配信・連絡アプリを導入し、ペーパーレスで業務が効率よく情報のやり取りができるようにしていく。

3. 評価項目及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
① プロジェクトを通して、保育の質向上	昨年に引き続き、“食育”“運動遊び”を通しての子どもの育ちについてプロジェクトチームをつくって考察した。
a. 食育活動から見る子どもの経験と育ち	“食育活動”では、食事のマナー・農園活動・食への興味の視点から子どもの育ちをみとっていった。子ども達や保育者からもいろんなアイデアがでて、「厨房との連絡ポスト」が配置され、子ども達の生の声が厨房に届き、調理師からも喜ばれ

<p>b. 戸外遊びから見る子どもの経験と育ち</p>	<p>た。手紙をやり取りすることで、子ども達の給食や食に対する興味も広がった。</p> <p>また、農園活動も子ども達は喜んで参加し、作物の成長や食材、生き物にも興味が広がった。</p> <p>食事のマナーに関しては、課題が見え、職員間や子ども達とも共有することができた。</p> <p>戸外遊びを通して、体力や体の動きの向上だけでなく、人間関係や心の育ち・主体性の発揮等も育まれていることを改めて実感し、新たな視点で戸外遊びの環境づくりや配慮を考えるきっかけになった。</p> <p>お互いのチームと成果や課題を共有することで、自分の保育に活かされることにつながり、保育や子ども理解の視野が広がっていった。</p>
<p>② 子ども理解の共有</p> <p>a. 保育の可視化を使って</p> <p>b. 職員間での共有</p> <p>子ども達の姿(興味関心、関わり、気づきなど)や成長を、子ども・職員間・保護者に可視化して伝え、共有し、保育の質の向上を目指す。</p>	<p>大私幼の 29 次プロジェクト研修会に参加して得た学びを生かし、子ども理解の共有を2つの視点で行い、少しずつ成果として実感してきた。</p> <p>保護者に、ドキュメンテーションや動画を見てもらう機会をたくさん作り、見えないところの“子どもの育ち”を共有できるようにした。</p> <p>職員間でも、各自が作成したドキュメンテーションや動画を見合せて付箋でコメントをつけたり、こどもの育ちや可視化についての園内研修をいくつか実施したりした。また、ドキュメンテーションや園内研修について職員にアンケートを取ることで、実施する意味や成果をより共有、実感できた。</p>
<p>③ 業務の ICT化、効率化に向けて</p>	<p>保護者への配布書類が一部ペーパーレスになったことで、印刷業務が減り、時間に余裕ができたり、保護者への連絡もスムーズに行えたりできるようになった。</p> <p>延長保育の受付がアプリになったことで、間違いや電話業務も減った。</p>

4. 3年度の目標や計画の総合的な評価結果

新しい職員も増え、子ども理解を深める為に、可視化についての園内研修や振り返りを進めていった。重点課題に置き、職員間でその過程、成果や課題を共有することで、可視化の意義や必要性を知る事が出来た。子ども理解や保育の幅が拡がり、次年度に向けての課題にも繋がった。

2学期末、職員に可視化や園内研修のアンケートを実施したことで、その良さに気づき、成果も感じられたと思われる。

写真を使ったドキュメンテーションを保育に用い、それを職員間、子ども、保護者で共有することで、子どもの主体的な保育の展開に結びついたり、子どもの理解を深めたりしていくことに繋がった。また、保護者にもわかりやすく子どもの育ちを可視化ができた。

プロジェクトの「運動遊び」「食育」も 2 年目を迎え、新たな視点からの気づきがあり、視野も広がった。「厨房ポスト」は今後も続けていき、さらなる食育への興味に繋げていきたい。

業務の ICT 化により、少し業務の効率化がみられたので、次年度に繋げ、職員の業務の進め方なども見直し、効率化を進めていきたい。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
プロジェクトを通して、保育の質向上 a. 室内あそびから見る子どもの経験と育ち b. 園庭あそびから見る子どもの経験と育ち	室内・園庭遊びを、子どもの興味・関心に沿った環境づくり・援助という視点から見て子ども理解を深める。 保育の可視化でドキュメンテーションや、今年度より写真を使っての保育記録に着手しているので、同じ視点で取り組み、学期ごとに取り組みや成果、課題などを共有していきたい。
分散型リーダーシップ体制の構築 自分事として、各自が責任をもって仕事を遂行していく	保育者が自分のクラスだけでなく、園で行う仕事や活動を自分事として捉え、主体的に取り組んでいく事を目指し、各プロジェクトに加え、農園活動、行事、人材育成、特別支援など、分野別にリーダーをたて、担当制にする。主任や園長などが援助しながら、各分野で出たアイデアを活かし、次年度に繋がる記録や成果を他の職員と共有する。
業務の効率化 a. 業務 写真や記録、書類などを整理、共有しやすくする。 b. 職員 見直しをもって保育計画を立てる。保育後の時間の使い方を見直す	保育室のネット環境を整え、今後の有事に備え、zoom 懇談会や、行事のライブ配信が可能な状況にする。また、子ども達と一緒に調べたり、子どもの姿の写真を撮ったり、パソコンにアップしやすいようにタブレットも導入する。同時に、アプリやツールなどを利用し、記録や書類などを整理、共有しやすくする。 環境面以外にも、職員の保育後の時間の使い方や保育計画の可視化など、職務遂行における業務効率化もすすめていく。

6. 学校関係者評価

・ドキュメンテーションや動画、配信など、保育が可視化されることで、園としての思いや取り組み、子どもの見方や成長などがよく理解出来る。

・来園して子どもの様子を見られない分、配信をたくさん取り入れたので子どもの様子よくわかった。園行事は少ない人数で実施したので、見やすかったが、実際の雰囲気や活動を体感できなかった分、少し寂しいところもあったと聞く。

・世の中や園の状況は理解できるが、生活発表会で保護者の閲覧ができなかったことが非常に残念だった、との声もあった。しかし、園の思いをしっかりと伝える事で、ご理解いただけた方が多くいらっやったと思う。

・コロナの中、出来ない事より、できる事を考え、子ども達に大切なことを前向きに取り組んでいく姿勢が感じられた。